

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375900244		
法人名	社会福祉法人幡豆福祉会		
事業所名	グループホーム しはと		
所在地	愛知県西尾市西幡豆町池下66-1		
自己評価作成日	平成27年9月30日	評価結果市町村受理日	平成28年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2375900244-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	平成27年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①竹内理論に基づく適正な水分摂取とトイレでの自然排便を通して、日中のオムツ使用者ゼロを目指し、自立支援に取り組む。
②地域の自主防災会と連携し、避難訓練の充実を図る。
③傾聴ボランティアを定期的に受け入れることで、傾聴技術を習得する。
④緊急時に対応できるように心肺蘇生法やAEDの研修を計画的に行う。
⑤他施設への体験研修を通して介護技術等の向上に努める。
⑥市内の小学校を対象とした認知症サポーター養成講座を継続して行う。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、三河湾が望める海拔20数メートルの南向きの丘陵地にあり、開所後12年を経過している。落ち着いた雰囲気のある外観や内装は、清潔で手入れが行き届いている。地域の夏祭りでは事業所の前で太鼓奉納がされたり、地域避難訓練では中学生や地域の方が避難場所への誘導の手伝いをしてくれるなど、地域の一員として相互の交流を深めている。入居者が描いた絵画や作品、季節の生け花がそれとなく飾られ、居心地よい空間を醸し出している。人生の先輩である入居者に対して「畏敬と尊敬の念」を理念として掲げ、「四つのハートの心」を具体的行動指針として示し、入居者に笑顔で接している。入居者のやりたい事、行きたい所などをケアプランの目標に掲げ、楽しみに繋がる様に職員が一体となって取り組んでいる。リビングは畳やソファのコーナーがあり、入居者は気に入った場所でテレビを見たりや新聞を読んだり、会話をしたりしてゆったりと過ごしている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体ミーティングの際復唱したり、毎日目を通せるように、申し送りノートに張り出しをしている。	理念を玄関や事務室、ホールに掲示するとともに、申し送りノートに張り、毎日目に触れることで、職員に浸透を図っている。毎日のサービスにつなげられるように全体ミーティングで復唱して確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	特別会員として、回覧板を回してもらっている。夏祭りや避難訓練等に参加している。	町内会に特別会員として加入し地域情報を得ている。地域の夏祭りでは事業所の前で太鼓奉納がされ、避難訓練では中学生や地域の方が避難場所への誘導の手伝いをしてくれている。事業所の感謝祭には手品やハーブ演奏など地域の方がボランティアとして参加してくれたり、食事を共にするなど、地域の一員として相互の交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を地域の小学校を対象に実施。夏休みの福祉ボランティアや中学生の職場体験にて、認知症の理解を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回民生委員、長寿課職員、包括支援職員、家族の方、入居者の方が参加し、率直な意見を求め、改善に繋げている。	入居者や家族、町内会役員、民生委員、市や包括の職員の参加を得て年6回開催している。認知症や日々のケアについて、行事報告、防災など、事業所の運営状況や課題などが議論されている。会議での意見は議事録にまとめられ、運営に反映している。	出席予定者以外でも、出来るだけ多くの方が参加できるように事業所からの案内や会議の議事内容を送付し、次回開催の期待感が持てるような取り組みや工夫を望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密にとり、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の担当の方には、何かあればすぐに確認、相談をするようにしている。	運営推進会議に毎回市担当者及び包括支援センター職員が出席し、事業所の実情が伝わっている。市から研修案内があり、積極的に参加したり、情報交換や相談等をしたり、良好な関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関施錠はしていないが、センサーを設置している。年に1回身体拘束をしないケアについての勉強会を実施している。	身体拘束についての資料に基づき、勉強会をし、意識を高めるようにしている。夜間を除いて開錠しているので、外との自由な行き来は出来る。日々のケアの中で、入居者の行動や発言を制限しないケアに心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についての勉強会を年に1回実施。虐待に繋がらないように、ストレスチェックを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回の研修を実施。但し、具体的に話し合いをしたり、活用までには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、十分な説明を行っているが、その後に改定等の説明の機会当は設けていない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際に、最近の状況説明を兼ねながら、意見・要望を聞き出すような努力はしている。	入居者の意見や要望は日常の会話や表情から把握している。家族からは面会に来た時に積極的に聞くようにし、申し送りノートに記入して、職員で話し合い運営に反映させている。食事について入居者アンケートを実施した所、細かな要望や意見を把握することができ、食事に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の全体ミーティングや半年に1回の面談の際に意見や提案を聞く機会を設けている。	毎月の全体ミーティングやケアプラン会議、日々のケアの中で、活発に発言や意見交換ができる機会があり、管理者は意見や要望を運営に反映させる努力をしている。年2回個人別ヒヤリングを実施して、職員の意見や要望の把握に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者の方との接点がほとんどなく、向上心を持って働けるよう環境とはいえない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修、ホーム内の研修は、計画的に行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中三河ブロックでの交流会、市内のグループホーム部会に定期的に参加。助言、アドバイスを頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接や契約の際、本人の要望や困りごとに関して確認を取っている。また、家族の方にも出来る限りの協力を得ている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接や契約の際、家族の要望や困りごとに関して確認を取っている。入居後は、月に1回の便りの郵送や、変化のあった時には、電話にて状況報告をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接や契約の際、本人や家族の要望や困りごとに関して確認を取っているが、他のサービス利用までには至っていない。ホーム内何が出来るか検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る範囲での自立支援を目標にしている。本人要望に関しては、積極的に実行を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居当初は、本人の不安感が強い為、面会の回数を増やしてもらったり、電話での対応をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の自宅や、お墓参りなどいままでの関係や習慣を継続できるように心掛けている。	お墓参りに行ったり友人宅へ送り届けたり、自宅で草取りなどをして一時を過ごせるような支援や、理容室、買い物など入居者の馴染みの店へ行くなどの支援に努めている。居室で絵を描いたり書を眺めたり、酒を嗜めたり、これまで大切にしてきた趣味や生活経験が途切れないような支援に心がけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や好き嫌いを配慮しながら、観察、声掛けを行っている。一人だけではなく、複数が関わられるような支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的な確認までは行っていないが、電話がかかってきたり、ホームに足を運んで頂いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向に関しては、大切にしている。出来るだけ目標を掲げ、楽しみに繋げられるようにしている。	傾聴の姿勢を基本として、入所時のフェイスシートや家族からの意向、日々の会話や動作、表情から把握するようにしている。入居者がやりたい事や行きたい所などをケアプランの目標に掲げ、日常のケアが楽しみに繋がる様にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接や契約時に、今までの生活歴、サービス利用の経過についてご本人様、御家族様に確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプラン(モニタリング等)の際、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の方からの要望把握が弱い。職員の間では、担当を中心に話し合いは実施出来ている。	入居者や家族の意見も参考にし、入居者ごとの担当者がモニタリングやアセスメントの責任者として介護計画を立案し、ケアプラン会議で話し合っている。3か月毎に計画の見直しをしているが、実情に合わせ随時見直しもしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「ケース記録」にて日々の情報の記入をしている。気づきや工夫に関しては、各担当中心に「申し送りノート」に記入し、情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他のサービスに繋がるような支援までは出来ていないが、個別での支援は出来る範囲で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	9名全員ではないが、訴えや希望等あれば、友人宅やお寺、畑等本人の力が発揮(喜ばれる)支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、協力病院の往診にて診察をしているが、入居者様、御家族様の希望があれば、いままでのかかりつけ医の診察を継続している。	かかりつけ医の受診は家族に依頼しているが、状況に応じて事業所で支援をしている。協力病院の往診が毎月あり、眼科、歯科は必要な時には事業所で送迎をするなど適切な医療が受けられるよう支援している。AEDを設置し、取り扱いの習熟を図っている。	AEDは非常時の緊急措置として有効性が認められ、公共機関などに設置されている。事業所周辺状況を鑑みて、地域貢献として地域の方にも活用できるように、周知の方法や体制の検討を望みたい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内に看護職がいない為、支援出来ない。但し、同法人の看護師に必要時電話にて、相談・支援をしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院とは、入院時状態報告や退院に向けての相談を電話にて行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の契約時、寝たきりの状態や医療行為が必要な場合等は、同法人の特養に移動があることを理解して頂いている。	入所の契約時に事業所としてできる事の説明をし、看取りは行わない旨の納得を得ている。重度化した場合は家族、法人内の特養と話し合い、優先的に転居できるように計らっており、家族からの安心感に繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2回の心肺蘇生法、AEDの使用方の講習を実施しているが、実践力の習得までには至っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に1回地元の自主防災訓練に参加し、地域の協力を得ている。地震や水害等の避難等全職員が避難方法を身につけるまでには至っていない。	事業所では年2回、地震後に火災発生を想定して訓練している。その際隣家が地域や職員への非常通報を引き受けてくれた。また年1回の地域の防災訓練では、中学生や地域の方が避難誘導に来てくれるなど地域の協力が得られている。備蓄は3日分が保管されている。	訓練の際、消防署へは通報のみであるので、実地指導を要請し訓練内容の評価をしてもらい、一層の安全確保に努める取り組みを望みたい。また、立地条件から山崩れや山火事などの訓練計画も検討していくことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本理念をかみ砕いて、全職員で共有している。「お客様」「おもてなし」の気持ちを大切に接している。	基本理念をさらに「四つのハートの心」として具体的に記述し、掲示して入居者への接し方や、支援方法等を日々確認している。全体ミーティングや日常の業務の中で、職員同士が話し合ったり、注意し合ったりして入居者を尊重する対応を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員で決定せず、本人様の思いや希望を出る限り尊重し、実施するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員で決定せず、本人様の思いや希望を出る限り尊重し、実施するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品やマニキュア等その人らしいおしゃれを楽しんでいる。「その人らしさ」を大切に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは、職員中心で行っている。食事の献立に関しては、好みを取り入れるように工夫等をしている。	献立は職員が入居者の希望を聞いて3日分をめぐりに立案し、近くの商店に発注している。行事食や毎月の「赤飯の日」や「さしみの日」、誕生日食などは入居者の楽しみになっている。入居者は職員と会話しながら一緒にテーブルを囲み食事を楽しんだり、食事の準備や洗い物などの手伝いをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の嗜好に合わせた献立にしている。水分量に関しては、1日1500ml以上を目標とする「竹内理論」に基づく取り組みをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがい薬を使用し口腔ケアを行っている。(就寝前には入れ歯洗浄を毎日行っている)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	今年度、紙パンツから布パンツへの変更を実施中。現在は4名の方が布パンツ+パットを使用。	排泄チェック表を参考に、本人の様子などからできるだけさりげないトイレ誘導をしている。夜間は本人が起きた時に様子を見るなど、定期的な声かけは必要以外少なくし、安眠できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量1日1500mlを目標に容器の変更や個別の取り組みを実施中。最近では便秘予防に寒天ゼリーを開始した。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に3回が原則であるが、その時の状態に合わせて、時間帯をずらしたり、翌日の方と変更したり柔軟に対応している。	2日に1回の入浴を基本としているが、希望者は毎日でも可能である。入浴リフトが設置され、椅子に掛けた状態で浴槽に浸かれ、入居者が安心して入浴ができるようにしている。菖蒲湯やゆず湯などの季節の湯や入浴剤を使用して、楽しんで入浴ができるような支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状況により、居室へ誘導したり、ソファで横になったりと体が休息できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各ケースファイルの頭に処方箋をファイリングして、すぐに確認できるようになっている。薬の変更時は、Drと連携を取りながら観察をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	希望は聞き入れ実施はしているが、ケアプランに挙げての内容はまだ、少ないのが現状である。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ希望に添えられるような方向で支援しているが、その日によって、実施できない事もある。8月に男性入居者様と、名古屋ドームまで念願であった野球観戦に行くことが出来た。	散歩や買い物に誘ってできるだけ外に出かけるようにしたり、独り外出の支援もしている。花見やいちご狩り、運動会や学芸会など地域の行事、日帰り旅行などに出かけている。個々の希望も聞いて、実現に向け努力している。今年は入居者全員で一泊旅行に行く予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の力に合わせて、支援している。1名の方のみ本人管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、電話や手紙を出すようにしている。1名のみ携帯電話を使用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある掲示物や生花等を飾るように配慮をしている。また、清潔に過ごせるように支援している。	清潔で明るい居間には入居者の絵画や貼り絵がさりげなくかけられ、季節を感じる生花も活けられている。畳のコーナーやソファが4か所に設置され、入居者は好みの場所でテレビを見たり、新聞を読んだり、会話をしたりして、ゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	性格の相性やトラブルにならないような工夫をしている。廊下にもソファを置き一人になったり、横になったりする場所として、活用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時家族や本人様に今まで使い慣れてきた物を、持ってきてもらうようお願いしている。	入居者は使い慣れた物や馴染みの物を持ち込んでいる。室内は家族の写真や自分の作品などを貼ったり、思い出の品々を飾って居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ自立した生活・介護については考えているが、細かな分類を一覧表にはしていない。		